

令和5年度 川和高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

	取組み課題	目 標	実施結果と目標の達成状況
1	法令遵守意識の向上（法令の遵守（高い倫理感の保持及びわいせつ事案をはじめとする不祥事の根絶）、服務規律の徹底）	職員一人ひとりに常に公務員としての自覚を持たせ、公務外非行を防止する。	①「神奈川県公立学校教職員の倫理に関する指針」の浸透を図るため、全職員を対象とした校長との個別面談を実施した。 ②学年会の定期的な開催等により、職員同士がコミュニケーションを取り合える、風通しの良い職場づくりを推進した。 ③校内外のイベント等で保護者や地域との協力・連携を深め、相互の信頼関係を構築することにつながった。
2	職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	職員一人ひとりが人権に配慮し、パワハラ、セクハラ、マタハラ等行為の未然防止について当事者意識を持って取り組み、職場のハラスメント行為を根絶する。	①校長講話や研修の実施等により職員一人ひとりが他者を尊重し人権に配慮して職務を推進する意識を高めるようにした。 ②不祥事防止職員啓発・点検資料を活用し、職場のハラスメント防止に関する理解を深め、事故防止に努めた。 ③管理職は面談等を通して風通しの良い職場をめざし相談しやすい環境づくりに努めた。産業医等を活用した個人面談についてはさらなる活用を工夫する。
3	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりが人権に配慮し、わいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守する。	①生徒指導等について複数人で対応した。 ②管理職は、授業や部活動の様子、教科準備室等の利用状況を日常的に巡視し事故防止に努めた。 ③不祥事防止職員啓発・点検などを通して、わいせつな行為・セクハラ防止に関する理解を深めた。 ④管理職は、全職員との面談等により生徒の個人情報への取扱いに関するルールを周知徹底した。
4	体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、体罰や不適切指導を未然に防止する。高い次元の文武両道に相応しい適正な部活動運営を実現する。	①啓発資料等をもとに、人権に関する内容を盛り込んだ研修会を実施した。 ②体罰や不適切指導防止に関する不祥事防止会議、不祥事防止研修会等を実施した。 ③校内人権相談窓口の周知を図り、いじめなどの人権侵害に迅速に対応した。 ④職員と管理職が個別面談等を行い、適切な指導のあり方について考える機会を設けたほか、アンケートの回答を踏まえた調査等を行い、必要に応じて改善を指導した。
5	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜業務や成績処理及び進路関係書類の作成に係る点検体制を徹底し事故を根絶する。	①入学者選抜制度改正や志願システムの改善を踏まえ、入学者選抜に係る不祥事防止研修やマニュアルの内容確認、点検等の徹底等により事故のない選抜事務を行った。

6	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報保護及び情報セキュリティへの理解を深め、個人情報の流出等に係る不祥事を防止する。	<p>①個人情報保護及び情報セキュリティへの理解を深めるための研修を実施した。</p> <p>②Teams、Google、暗号化システムの使い分けを徹底し、個人情報や重要情報の適切な管理を行うよう研修等で理解を深めた。</p> <p>③個人情報の紛失・誤廃棄などを防止するため、持ち出し許可は必要最低限とするなどの個人情報登録に係る手続を徹底した。期試験前後にシュレッダ一使用制限期間を設け、事故防止を徹底した。</p>
7	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守を徹底し、「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」を徹底し、酒酔い、酒気帯び運転の根絶を図る。	<p>①職員啓発資料等をもとに、交通事故等の防止に向けた研修会を実施した。</p> <p>②研修等を通して、軽微な違反もしないという高いコンプライアンス意識を醸成するよう図った。</p>
8	業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	教育委員会ネットワークシステム等を活用し、情報の共有と校務の効率化を図る。働き方改革推進による生徒支援・教育相談の強化につなげる。	<p>①Teams によるファイル管理や打合せの効率化、手続きの簡略化により業務に係る負担の軽減と確実な履行、継承を図った。</p> <p>②各種業務遂行に当たり、定められた手続等を遵守するとともに、複数による点検を的確に行うよう呼びかけ、不祥事防止の徹底を図った。</p> <p>③行政文書管理システムの利用により、文書を効率的に管理したが、行政ネットワークに限られておりその効果が十分でないことが課題である。</p> <p>④新たに統合型校務支援システムにおける日々出欠入力を導入したことで、校務の効率化と成績処理における事故防止につなげることができた。</p>
9	財務事務等の適正執行	県費及び私費会計について、適正な執行、現金の適切な管理等により、会計に係る不祥事を防止する。	<p>①会計事務にかかる諸規程の遵守、予算の計画的な執行及び複数による確認等の徹底により、不適正経理を防止することができた。</p> <p>②各監査ならびに財務事務調査等の指導事項を職員会議で共有し改善を図った。</p> <p>③インターネットバンキングの活用により会計処理の手続きの効率化が図れた。</p>

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題（学校長意見）

生徒にも職員にも、他者に対する気配りや思いやり、リスペクトが重要であることを繰り返し話している。今では生徒の間にも浸透し、校内では有名なフレーズとなっている。しかし人権意識の向上という面では十分ではないと思われる事例もあり、今後も課題と考えて取り組んでいく。生徒の人権意識を高めるためにはまず教員が人権感覚を磨き、常日頃から人権に配慮した行動や発言をしていくことが肝要であり、引き続き呼びかけていく必要がある。

わいせつ、セクハラ行為の防止については、校長が各職員との個別面談を実施し、倫理指針の趣旨を説明するほか、生徒とのSNSの禁止等のルール徹底を呼び掛けるなど、わいせつ事案根絶への意識を高めた。

部活動加入率が100%近い状況にある本校においては、個々の生徒の能力や意識の把握を踏まえた指導のあり方や、指導方針についてのスタッフの共通理解などについて、職員会議等の場面で校長から指示伝達を行うとともに、部活動アンケートを実施し、活動の改善に生かすなど、より適切な実施に向けて取り組んだ。

入学者選抜については、制度変更やインターネット出願システムなど大きな変化があったが、マニユ

アル等を改訂し、読み合わせや点検フォームの活用などで周知を図り、適切な運用に努めた。生徒の一生に関わる重要な業務であり、過ちは許されないという認識を引き続き教職員間で共有しながら業務に臨むよう呼び掛けた。研修においては不測の事態にどう対応するかをシミュレーションさせたり、過去の事例等も紹介したりしながら意識を高めた。

業務の効率化については、令和4年度から導入したサービス手続きの電子化やインターネットバンキングの導入、会議のペーパーレス化、欠席連絡のオンライン化等が定着し、一定の前進があった。今後も業務の進め方については常に見直しを行い、場合によっては整理統合を行い、教員が本来業務に専念できる時間を増やすことによる教育活動の充実につなげていきたい。

本校は令和6年度から4年間、引き続き学力向上進学重点校の指定を受けた。そのことを踏まえ、新たな学校教育計画等を策定するにあたり、一人ひとりの進路希望実現に加え、高い次元の文武両道を実現するための適正な部活動運営や、安心・安全な学校環境づくり、働き方改革の視点をもった持続可能な学校づくりなどを掲げた。こうした目標を職員間で共有し、その実現と併せて不祥事のない組織づくりにもつなげていきたい。

次年度に向けた重点項目は、

- ① わいせつ事案根絶への取組の継続（人権に配慮した生徒対応、法令順守の徹底）
- ② 体罰や不適切な指導の根絶（高い次元の文武両道に相応しい適正な部活動運営）
- ③ 個人情報の適正な管理（個人情報の漏洩防止や適正な取扱の徹底）
- ④ 事務執行体制の更なる確保（働き方改革推進による生徒支援・教育相談の強化）

の4点について取り組み、推進強化を図りたい、